

# 安全は目に見えない、みんなで築き上げる

## 東日本大震災の遺族講演

### 企業防災の在り方訴え 中央区

企業が社内で行きとむべき防災の在り方を東日本大震災の遺族が伝えるオンライン講演が、新潟市中央区の地質調査会社で行われた。宮城県女川町の職場で勤務中だった長男を津波で亡くし、現地で語り部をする田村孝行さん(62)、弘美さん(60)夫妻が「安全は目に見えないが、社員みんなで築き上げるものだ」と訴えた。

講演は8月30日、地質調査会社の村尾技建(中央区)が社員向けに実施。同社社員が復興対応で田村夫妻と知り合った縁で初めて企画し、40人が視聴した。

講演では長男の健太さん＝当時(25)＝が震災時に勤務先の銀行支店内にいて、支店長の指示で屋上に避難したものの津波の犠牲になったことや近くの高台

に避難すれば助かっていた状況を説明した。

孝行さんは勤務中の従業員について、職場の空気感や指示によっては自身の安全を最優先できない場合があり、「個人の判断では動けない」と説明。リーダーには適切な判断能力が必要だとした上で、「リーダー1人が判断を間違えても、意見を言い合える職場環境であれば正しい方向に軌道修正できる」と述べ、日頃の関係づくりや訓練などの備えが大切だと訴えた。

津波に襲われた女川町沿岸部にはいくつもの金融機関があったが、健太さんの勤務先以外は高台に逃げるなどし、犠牲者が出なかった。同じ悲劇を繰り返さないために「仕方なかったとせず、教訓としなければならない」と原因究明の重要性も強調した。

被災地で夫妻と知り合い、講演の実現につなげた村尾技建取締役の手塚裕樹さん(59)は「企業防災の在り方について社員に新たな気づきが生まれた。今後の改善に生かしたい」と話した。写真＝企業防災を考えるオンライン講演。亡くなった田村健太さん(画面右奥)が写った家族写真も紹介された＝新潟市中央区

